

JD Farag 牧師 中東アップデート 2017年10月1日公開**<https://youtu.be/f0SibfeMP6I>****特別アップデート・聖餐式**

今日は、特別アップデートをしたいと思います。その理由はいろいろあります。一つは、私が来週と再来週と留守にする為です。今週、私は10月7日にJan Markellの「時代を理解する」カンファレンスで、お話しさせていただくことになっている為、ミネソタ州へ発ちます。今年のスピーカーは、ミッシェル・バクマン、ご存知の通り議員で、2012年の大統領候補者でもあります。それからマーク・ヒッチコック博士もスピーカーの1人です。何年も前に、ここカルバリーチャペルカネオへにも来ていただきましたが、オクラホマ州のFaith Bibleチャーチの牧師であり、20冊以上の著書の作家でもあります。私は彼の著書の大ファンです。さらに、アミール・ツアルファティ。去年8月に、ここに来たので皆さん覚えていらっしゃるでしょう。また、もし主が来られていなければ、来年2018年11月に、御心ならばイスラエルツアーを予定しています。その時に、アミールと私でツアーを引率します。「主の御心ならば」と、必ず付け加えなければいけません。そして、次にミネソタ州を出て、バージニア州に行きます。数日間はリバティー大学で過ごさせていただきます。そこで、「イスラエルと共に立つ」クラブの会長と、アラブ人クリスチャンの生徒たちと会って話をする予定です。どうか皆さんお祈りください。特に彼ら、アラブ人の主にある兄弟姉妹達の為に。彼らの多くが、イスラエルに関して、アラブ人の教えの中で育っています。私もそうです。なので、これは、アラブ人の兄弟姉妹と共に過ごす、とても重要で、素晴らしい時間になると思います。とても楽しみです。どうかお祈りください。3つ目に、オクラホマ州に行き、「Blessed Hope Prophecy Forum」で話をさせていただきます。そして、主の御心ならば10月19日の木曜日、また説教台に戻ってきます。

今日は、聖餐式の日曜日であるだけでなく、新しい教会に移ってから1周年である事にお気づきですか？すごくないですか？あつと言う間でしたね。本当にあつと言う間に過ぎました。神が私たちに与えてくださった、この美しい教会の建物での、第一回の礼拝は、2016年10月2日日曜日でした。そして、1年後の10月1日の今日、神がしてくださった事を、祝いたいと思います。その為、急いで聖餐式を行いたくなかったのです。

現在木曜日はネヘミヤ書を学んでいて、8章を終えたところです。そこではネヘミヤが奇蹟的に捕囚からエルサレムに戻った2%のユダヤ人と、城壁を建てるのです。たった2%だけが戻ったのです。それほど少人数の神の民で、彼らは奇蹟的に52日で壁を建て終えました。これは本当の奇蹟です。私たちが改装工事をはじめてからは、9か月でした。あれも、正真正銘奇蹟です。そして木曜の夜に話したことの一つ、大事なのは建物ではなく、建物を建てる事でもなく、神の民を建てる事です。全行程を通して、神は確かに私たちの中で、また私たちを通して働いてくださいました。そして私たちは、この美しい教会の中に居て、全て神がしてくださったのです。この神の御業を見てください。私たちの神は、本当に素晴らしい。

それからもう一つお伝えしたいことがあります。これは今日、私がお話ししたい事でもあるのですが、

先週、娘のサビアが国歌をニューヨークのUS テニスオープンで歌っている様子の動画をアップロードしました。それに関して、少し補足で付け加えたいと思います。私の娘が立って「America the Beautiful」を歌った時、誰もひざまずく人は居ませんでした。ただ、全員が手を胸に当てたのです。優しい言葉や、コメントを書いてくださった皆さんに、大きな声でお礼を伝えます。

次の事もまた、今日主が私を通して語られていると思うのですが、最近の国歌斉唱に対する抗議について、です。正直言いますと、先週私は、この考えられないような争いに関して、自分で気づいてハッとしました。これは、私自身移民として、私が持っているこの強い感情と関連していて、私の娘が「America the Beautiful (美しきアメリカ)」を、私の両親が逃れてやって来たアメリカで歌っているのを見ながら、この国を象徴する国旗を侮辱し、ないがしろにする人が居る事が、私には考えられませんでした。これがとても皮肉だと思うのは、彼らがしているのは、実際のところ、彼らの抗議している相手は、まさに彼らにデモをする自由を与えた人達です。そして旗は、彼らが抗議している人達を代表しているのですから。正直言えば、私は震えました。そして、主の元に持って行きました。それ以前に、私は元々感情的な人間ですから。ともかく、「この事になると、どうして私はこんなにも感情的になるのでしょうか？」と。それに対して、主が言われたのは、私は、この国を愛しているのだ、と。でも、私は、この愛するアメリカ合衆国へのこだわりを緩めなければならない。これが今日、私がお話ししようと思う内容です。この、私の感情に関して、主に聞いたのです。それに対して主が、私に語られたのは、とても明白でした。「これは政治的な問題ではなく、これは人種的な問題でもなく、これは霊的な問題だ。」我々が現在目撃しているのは、霊的な事なのだ、と。私は霊的な事に加えて、聖書的であるという事も、付け加えておきます。聖書預言、特にアメリカ合衆国に関しては。そこに至った経緯を説明します。その前に、前提としてお伝えしたいのは、これは肉と血の格闘ではないという事。これは、自民党、共和党の格闘でもなく、左翼、右翼の格闘でもなく、保守派對リベラルでもありません。これは、そんなものではないという事を、理解しておいてください。私たちの格闘は、人に対してではない。この人達は、私たちの敵ではありません。これは、私たちの魂の敵であって、それがこの全てです。それについて、エペソの教会にパウロが書いています。

“終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。私たちの格闘は血肉に対するものではなく、——” (エペソ 6 : 10-12)

これは面白い表現です。レスリングを知っている人なら分かると思いますが、あらゆるものをしようとするのです。ボクシングとは違って、レスリングは全身です。血肉と格闘しているのでなければ、誰と格闘しているのか？それは、

“——主権、力、この暗闇の世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。” (エペソ 6 : 12)

次に、なぜ私がこれを指摘したかと言うと、それは、使徒パウロは4つのレベルの霊的実体を伝えてい

て、靈的領域には、異なる階級、異なる権力レベルがある事を告げているからです。これは、警察や軍の権威の階級に似ています。言いかえれば、これらサタンの実体には、彼らの靈的支配者と階級を基にした、具体的な領域を支配する、悪霊の力があるという事です。これについて、もう少し説明します。これらの事から、靈的領域には、強力な支配者が居て、それが異なる領域に具体的に指令を出している事が分かります。それによって、彼らは光の御国に敵対して、暗やみの世界を推し進めるため「悪魔の策略」を施すのです。そう考えると、アメリカ合衆国とイスラエルが、この靈的攻撃の標的になるのが理解できます。「アメリカ合衆国が攻撃されている」と言うと、皆さんは同感でしょうか？皆さんもそう思われますか？さらに、イスラエルが、あらゆる面で攻撃されていると言うのは、同感でしょうか？なぜだろうと思った事はありませんか？なぜそうなるのか、私の思うところを説明したいと思います。その証拠は、聖書の特定の預言を見れば十分です。よく聞いてください。それは、イスラエルの存在について、伝えています。しかしながら、アメリカ合衆国に関しては、不思議と出てこないのです。これは否定できない事の一つです。アメリカが、聖書預言に出てくると言う人が居られますが、それに対して、私は敬意をもって、反対意見だという事で合意させていただきます。しかし、有名なエゼキエル 38, 39 章の預言は、最後にイスラエルが孤立すると書かれてあり、イスラエルを防衛するアメリカ合衆国はありません。13 節に、イギリスとアメリカが出てくると言う人もいます。そこでは、サウジアラビアが良くて抗議するだけです。「あなたは物を分捕る為に来たのか。獲物をかすめ奪うために来たのか？」彼らはただ抗議するだけです。またそれは、サウジアラビアの古代名、シェバ、デダンとして記載されていて、そこは現在のサウジアラビアの地域だという事が分かります。

イスラエルの孤立と、イスラエルを防衛するアメリカの不在について語った、別の預言はゼカリヤ 1 2 章です。ゼカリヤの預言は、もっと具体的で、エルサレムに関する詳細が書かれています。それによると、すべて周りの民や国が、イスラエルに攻めてくると言います。これの興味深いところは、エルサレムの国境を分断しようとするという詳細の部分です。これは、今日現在起こっている、と私は思っています。それもアメリカ合衆国の手によって、行われていると思います。それは現在の政権によって行われている。私が思うに、その理由は、このゼカリヤ 1 2 章の預言の起こり始めです。1-3 節をお読みします。

“イスラエルについて主のことば。——天を張り、地の基を定め、人の靈をその中に造られた方、主の御告げ——見よ。わたしはエルサレムを、その回りのすべての国々と民をよろめかす杯とする。”
(ゼカリヤ 12:1-2)

言いかえれば、イスラエルの国境を囲むすべての国、全ての民が、エルサレムによろめくという事。彼らがエルサレムに取り憑かれ、よろめくのです。ゼカリヤは続けます。

“——ユダについてもそうなる。エルサレムの包囲されるときに。その日、わたしはエルサレムを、すべての国々の民にとって重い石とする。” (ゼカリヤ 12:2-3)

これはどういう意味ですか？これはつまり、動くことのない思い境の石、エルサレムの境界、あるいは

国境と言っても良いでしょう。

「あなた方は、境界石を動かそうとしているが、重いだらう？」

—はい。

「なかなか動かないだらう？」

—はい。

「でも、あなた方はそれに取り憑かれているね？」

—はい。

これがまさに、今日起こっている事です。

次に、エルサレムの、重く動かない境界石を動かし、分断しようとしている者たちに対して、神がゼカリヤを通して伝えている預言を聞いてください。彼らに何が起こると、神は言われているか。

“すべて、それをつづぐ者は、ひどく傷を受ける。…” (ゼカリヤ 12:3)

ここで止めます。これについてよく考えてみてください。「あなたはエルサレムを分断したいのか？文字通り、わたしが名を置いた都を？」神の御名は、エルサレムの都に置かれているのです。所有者としての神の御名が、エルサレムに置かれているのです。旧約聖書の学びで、それを見ましたし、以前の預言アップデートでも、それについて話しました。神の御名が文字通り、エルサレムにあるのです。しかし、あなたは、それを切り分けたい、分断したい、分けたいと？それならどうなるか？わたしは、あなたに同じことをする。エルサレムを切り分けるなら、わたしはあなたを切り分ける。あなたがエルサレムを分断するなら、わたしはあなたの国、あなたの諸国を分断しよう。

皆さんにお聞きします。アメリカ合衆国は、現在分断していますか？私は、この愛するアメリカ合衆国で、現在私たちが目撃しているようなものを、これまで見た事はありません。分断が起こっています。それは、もしかしたら、ゼカリヤ書の預言の為かも知れません。私たちが、エルサレムを分断しようとしたから？私たちが、エルサレムを分断し、切り分けようとしたから、我々が分断され、切り分けられているのか？3節の最後の部分を見てください。

“…地のすべての国々は、それに向かって集まって来よう。” (ゼカリヤ 12:3)

これが、明白な理由として私が言いたいカギとなる部分です。つまりこれは、イスラエルの為に立ち上げる国は、1つも無いという事。現在、地上の全ての国がイスラエルに敵対しています。とすると、それが何を意味するか分かりますか？そうなる為には、かつては地上で最も力を持っていた国に、何かが起こらなければならないのです。では、アメリカに何が起こったのか？恐らくこれは、皆さんの望む答えではないでしょうが、私が思うに、こうしてお話ししている間にも、もうすでにアメリカに起こり始めています。

今朝、教会に向かっている時の事です。なんとというか、神と言い争っていたとでも言いますか。皆さんもしたことはありませんか？私は神と会話していて、主にこう言ったのです。「主よ。これは難しいで

す。真実である事は分かっています。それから、私が真実を教えない事を、あなたが許さない事も分かっています。でも主よ。私は、私が牧らせていただいているこの素晴らしい教会で、あなたの民の前に立って、『神は偉大だ！』『全て順調だ！』『神はあなたを愛しています！』『さあ、皆でハグをしよう！』『さあ、ご飯を食べよう！』と言えたらいいのに。でもそれは出来ません。」

皆さんの前に立って、平和の無い時に、「平和だ。平和だ。」とは、言えないのです。城壁の見張り人として、大音量で響く音が聞こえているから、私は皆さんにこれから起こる事を、警告しなければなりません。しかもそれは、まぎれもない真実です。そして、これに対して、私が個人的にずっと格闘している事を、皆さんに伝えなければ嘘になります。さらに言えば、私はこの国で生まれたのではありませんから、もし、私が9か月の時に両親がこの国に移民していなかったら、私は、未だに生きていたか分からないし、救われていなかったでしょう。私がこの国を愛していないと思いますか？主が私に強く語られた事の一つは、私の希望はアメリカにはない、という事です。これは、祝福された希望ではありません。なぜなら、もし私が聖書預言を正しく理解しているなら、これらの預言が成就される時、アメリカは立っていません。

皆さん、これに関して同感ですか？これは、好まれる説教でない事は分かっています。むしろ、牧師たちが、終末について、自分たちの教会で語りたがらないのは、これが主な理由だと思っています。違いますか？しかし、私が把握しているのは、時に私はこの素晴らしい国を、強く握りしめすぎている。この国に、私は、大きな恩を感じ感謝していますから。そしてそれは、ずっと変わりません。これからも私は恩を忘れません。だから、私は国歌を聞くたびに泣いてしまうのです。娘が歌う時は、毎回です。

「America the Beautiful (美しきアメリカ)」を歌うたびに、私は大泣きしてしまいます。これは、どちらかと言うと嘆きで、悲しみです。悲しくはないですか？

しかし私たちは、この世も、この世のものも、手放さなければなりません。私たちは、この国を愛すべきですが、この世とこの世のものを愛することに関しては、注意しなければなりません。ここは、私たちの家ではありませんから。これらは全て消えていくものですから。終わりの時、大いなる裁きの日には、大事なものなんて、何も無くなるのですから。

「先生、今日はえらく落ち込みモードですよ？」と思っていますか。もう少し耐えてください。ちなみに、最後はハッピーエンドになりますから。

ともかく、私はヤコブが言った事を考えていたのです。人生とは霧にすぎない、ですよ？明日、これこれの町に行き、そこでこの商売をしようとか、この伝道をしようとか言う時には、とても気を付けなければならないといけない。あなたには分からないのだから。常に、主の御心ならば、という前提でなければ。何故かと言えば、明日は約束されていないからです(ヤコブ4:13-15)。だから私はまだ、先日から起こっている嵐や、地震の大惨事に動揺しているのです。フロリダやテキサスと言えば、ここハワイに住んでいる私たちにとっては、結構近いですしね？

地震はどうでしょう？私が言いたいのは、これもまた紛れもない事実で、全ては一瞬のうちに消えてなくなる可能性があるのです。なら、私たちは何にしがみついているのか？これが、私たちの手中にある希望ですか？もしそうだとしたら、私たちは誰よりも惨めな人間です。もし、私たちの希望がそこにあるなら。それは、私たちの希望ではありません。私たちは、この世やこの世のものを、こんな風にこぼしを作り、握りしめています。人生の心配事や、働きを。でも時に神は、その忠実さと優しさから、あ

われみと恵みを持って、握りしめている手をもみほぐし、緩めて行かれます。私たちがこのように握りしめず、手を開いて、手のひらを見せて、「主よ、ここにいます。」「主よ。私はここです。」と。

きっと、これは今日ここに居るとなにかへの言葉だったのでしょ。誤解しないでください。私は、トランプが大好きですよ。私は、トランプに投票したのです。神学的に、アメリカが再び偉大になるなら、私たちにはまだ時間があるという事になります。もしアメリカが再び偉大になるなら、アメリカが再び偉大にならないどころか、アメリカはアメリカでなくなるという預言にそぐいませんから。だから、そうなるならなれば良い。これを言うのは、慎重に言わなければなりません。私たちは、今日主が来られても良いように、もしくは、何年先になっても良いように、準備をしておかなければなりません。主がすぐに戻って来られる事に対して、私たちは常に備え、常に見張っていなければなりません。

2週間前の礼拝の後、ある人と話をしていました。9月23日の事についてです。私が言ったのは、「もし主が今日、日曜の午後に来られると私に分かっていたとしても、私はいつもと変わらず、同じことをしているでしょう。」言いかえれば、私はすべき事は全て行い、話すべき人には全員と話をします。もし、今日の午後イエスが来て、教会を携挙されると確信したとしても、私の行動に、いつもと何ら変わりはありません。最後まで、いつものように説教し、いつものように預言アップデートをします。ギリギリになって電話をかけて、「おい、主が来るぞ！」とは言いません。私は、いつもそれをしていきます。と言うと、皆さんは「そうだ、知ってるよ。」と言うでしょう。「毎週毎週、私たちは、ここに座って、それを耐えているよ。」と。

私たちが、こうして話している間にも、それは起こっていると私が思う理由は、アメリカが、組織的に、さらに言えば、サタンの的に内側から解体され、破壊されているだけでなく、アメリカは、外側からも突然のサタンの破滅の標的にもなっています。何度も話していますが、私の両親が若い時に、中東から移住してきたアメリカは、私が現在住んでいるアメリカとは、別物です。10年、15年、20年前を考えてみても、全く違うアメリカです。よく考えてみてください。今日見ているアメリカがこれなら、明日はどんなだと思えますか？2018年は？物事がすごい速さで起こっています。現在進行形の動きがあって、それが、我々のユダヤクリスチャン伝統の破滅に向けて、すごい勢いで、引っ張っているのです。

この全ては、国歌に関する事で、皆さんももうすでに聞いておられるでしょう。もしくは、すぐに聞こえてくると思えます。恐らく、スポーツ大会の全てから、国歌が完全に排除される事になるでしょう。私の娘が、歌わせていただいたUSオープンで、元ニューヨーク市警で、警護派遣でもあった、私たちの運転手に言われたのです。世界最大のテニススタジアムで行われる、世界最大のテニス大会USオープンで、14歳以下の子どもに「America the Beautiful」を歌わせるようになったのは、9・11があったからだとか。16年前の事です。このような全ての大会から、完全に国歌を排除するなんて日が来ると、想像できましたか？そんな日を目の当たりにするなんて、考えた事ありますか？でも、我々は驚きますか？アメリカ史の、修正主義の中で起こっている事が見えてきませんか？アメリカについて、今日の公立学校で教えている事を見れば、十分です。衝撃を受けますよ。私には衝撃でした。しかし、だからこうして、彼らは全ての記念碑を取り壊そうとしているのです。彼らは全て燃やし、全てを破壊しようと

している。なぜか？それは、それらが象徴しているものの為です。聖書預言が現実になるためには、あのアメリカは無くならなければならないのです。このアメリカは、反クリスチャン、反イスラエル。そして、私たちの目の前でものすごい勢いで、それらが起こっています。これが、私が信じる理由です。

ところで、イスラエルの世界へようこそ。これは、イスラエル建国以来ずっと、イスラムがイスラエルにしようとしていた事です。彼らは、かつて、そこにユダヤ神殿があったとするあらゆる証拠を全て抹消しようとしています。だから、あのユネスコは、必死であそことユダヤ人の関連を否定するのです。ところで、これに関しては、皆さんが良く検証して下さい。注意しないと、今日教会のなかで、「クリスチャン・パレスチナ人主義」が出回っているのです。「クリスチャン・パレスチナ人主義」何のことだか分かりますか？これは、イエスがパレスチナ人だったと言う教えです。これが、とても狡猾なのです。ものすごく狡猾です。と言うのも、一見ただの無知のようにも聞こえるのです。私もそう思いたいですよ。意図的ではないと。そのような事を説教台で言う人たちに、少し疑いの余地を残しておきたいですが。説教台で、ですよ。イエスがパレスチナ人だったなどと。あそこは西暦2世紀まで、パレスチナなんて呼ばれていなかったのです。しかもそれは、あそこが破壊されてから、イスラエルの古代の敵ペリシテ人、絶滅したペリシテ人にちなんで付けられたのです。そして、元々は「アエリア・カピトリナ」と呼ばれていたものを、彼らはペリシテと呼びました。それが、パレスチナと訳されたのです。この2000年間。私はこれを『偽ネーム』と呼びますよ。これは『偽ネーム』です。あそこは一度たりとも、パレスチナの地であった事は無い。あそこはカナンで、神がその地をイスラエルに与えたのです。神の民に。だから、そこはイスラエルのものです。本当には、あそこは神のものです。神のものであって、神がそれをイスラエルに与えたのです。だから彼らは、ユダヤの存在を証明する、あらゆるものを抹消しようとしているのです。

私がこれから言う事を、慎重に良く考えてください。前にも同じことを言いましたが、これはとても重要な事ですから。ユダヤ人と、クリスチャン、もしくはコーランが言う「書の民」が、正真正銘神の民であるという事は、私たちに對する攻撃があるという事実から、証明されませんか？言いかえれば、ユダヤ人とクリスチャンが、本物の神の民であるという事を、これによって立証し、証明していませんか？本物でないものを、真似は出来ませんから。それは本物ではありません。だから、70ドル札の偽札なんて見た事が無いのです。何故か？本物の70ドル札なんてものは無いからです。100ドルの偽札なら見かけます。それが本物だからです。そして、サタンは偽物の達人です。彼は、彼が混乱の神で、彼は偽りの父、そして彼は、兄弟たちを告発する者です。

ここで、向きを変えていきたいと思えます。現在アメリカで起こっている事の背後にあるものについて、お話ししようと思えます。もし、これが確かにアメリカで起こっているのなら、-私は起こっていると思っていますが-問題は、「何故、これがアメリカに起こっているのか？」になると思えます。そして、その「何故？」の答えは一言です。「イスラエル」

イスラエルです。よく聞いてください。アメリカは、地政治的な範囲から取り去られなければならない。その結果、イスラエルの防衛に来ることが出来なくなるために。言い方を変えて言ってみましょう。今日のアメリカは、イスラエルを防衛します。それが、特にイランにとっては問題なのです。彼らは、他でもない北朝鮮と手を組んでいます。だから、アメリカは消えなければならない。大きいサタン

を図式から抹消しなければならない。そうすれば、小さいサタンを攻撃できるから。これで、繋がって来ませんか？これで、イランと北朝鮮の親密な関係、「核」の關係に説明が付きませんか？彼らは共に、アメリカ合衆国がイスラエルの防衛に來れないのを見るのです。そこで、まさに誰もが「しかし、神は」を見るのです。誰もいない、しかし神が、イスラエルを防衛するために來られる。それには理由があって、皆さんはもうご存知だと思いますが。私から見れば、これで最初にお話しした2つの預言のつじつまがあうと思います。ただ神ご自身だけが、神の民の防衛に來られる。現在の、アメリカ合衆国は存在せず、これまでずっと助けて來た国が、無に等しくなる。そして、エゼキエルの預言では、神ご自身が宣言しておられます。神がそれをされる時、

“わたしがわたしの大いなる事を示し、わたしの聖なることを示して、多くの国々の見ている前で、わたしを知らせよう。”（エゼキエル 38:23）

私は、「わたしが」の部分を強調されたのだと思います。あれは、あなたの神では無い。金の子牛は、あなたの神では無い。アメリカは、神として作られたのでしょうか？姦淫の礼拝として？神は「わたしが、あなたの神、主である。」と言われます。

“あなたには、わたしのほかに、他の神々があってはならない”（申命記 5:7）

私以外、他に誰も残っていない。しかし見よ。主の救いを。見よ。聖なる主を。これを、個人的に適應できる形で説明しましょう。ここに居る、どなたかに必要なのかもしれませんが。時に神は、あなたの人生、あなたの人生のある状況から、あらゆるもの、あらゆる人を取り除かれる。そうする事で、あなたには主だけを見上げて、ただ主だけを信賴する以外、他に選択肢をなくすためです。ただ主だけ、です。私たちは時として、人を頼ったり、ある人達は資産、資金を頼りにします。

“あるものはいくさ車を誇り、ある者は、馬を誇る。しかし、私たちは私たちの神、主の御名を誇ろう。”（詩編 20:7）

そして時に神は、私たちが頼りにしているものを取り去られます。でも、「他の何をも、他の誰をも頼らないように、私が教えてやろう！」と、神が言っているのではありません。これは、天の愛なる父です。数週間前にも話しました。

「わたしはあなたの事をとても愛しているんだ。だから、あなたにはわたしを見て、わたしを信賴して欲しいんだ。わたしは、あなたの為に、あなたの神でいたい。そして、あなたに見せたいんだ。でも、今はできない。あなたがわたしを見ていないから。あなたはこれを頼り、あれを頼っている。」

十戒の1つ目の命令は、ご存知ですね？

“あなたには、わたしのほかに、神々があってはならない。”（出エジプト記 20:3）

ある本の著者が言っていたのが、これは Tender Commandments（優しい掟）だ。Ten Commandments

(十戒)は、「Ten Commandments!」ではなく、愛なる神からの「Tender Commandments (優しい掟)」なのだ、と。主は言われるのです。「わたしの代わりに、他の神々を持つんじゃない。それらは、あなたの為に一緒に居ないから。それらは、神などでは無いから。」

ペリシテ人の話は、むしろ滑稽だと思うのです。ニネベの人(ヨナ記)の神は、半分人で半分魚の像です。本当に面白いのです。神は笑いのセンスがありますよね?毎朝、鏡に映る自分を見るたびに、「神よ。あなたは面白い!」と思いますよ。「ものすごい笑いのセンスがありますね。」と。ヨナは神から逃げましたが、そこへ神が送った大きな魚が来て、彼を飲み込みますね?それから、汚い表現で申し訳ないのですが、魚が彼を吐き出した。本当にこういう表現がされているのです。彼は、ニネベの海岸に吐き出され、そこで福音を述べたわけでもなくて、良い知らせもなく基本的にかれが言ったのは、「もう40日すると、ニネベは滅ぼされる。」(ヨナ3:4)「楽しみだ!あっちの丘に登って見てやろう!お前たちが焼き尽くされるのを、見届けてやる!」これが基本的に彼のメッセージですよ。どうですか?ところが、どうです!ニネベの人々は悔い改めたのです。するとヨナは腹を立てました。彼は怒ったのです。なぜ彼らが悔い改めたか分かりますか?

ここからが面白いのです。ものすごい滑稽ですよ。ニネベの人達は、半魚人の神を拝んでいたのです。それからこれを考えてみてください。魚が、人間を海岸に吐き出して、あのメッセージをしたのです。皆さんは、それを聞きますよね?それが、彼らの神だったのです。神はあなたのいる場所で語られるのです。「半魚人の神を拝みたいのか?よし。魚に人間を飲み込ませよう。あなた方が、それを神として拝みたいなら、それにメッセージを伝えさせよう。」と。私はこれが大好きです。彼らは悔い改めたのです。「これは、神が語っておられる!」半魚人!分かりますか?文脈を見れば、さらに滑稽で面白いですよね。

ペリシテ人が契約の箱を取った時、彼らは大変な間違いを犯します。彼らは、契約の箱を彼らの神と同じところに置いたのです。彼らの、半魚人の神と、です。そして彼らは、契約の箱を一晩そこに置いて、翌朝入って見ると、半魚人の神は、契約の箱の前で、うつ伏せで倒れていたのです。そこで彼らは、「なんて事だ!我々の神を起こさなければ!」と言って、元に戻しました。するとまだ同じことが起こって、今度は頭が取れ、腕が取れていたのです。あなたの神の腕を、あなたが戻さないといけなかったら、大変ですよ?分かりますか?一体何が言いたいのか?

つまり私が言いたいの、これらの神々は、あなたの為に一緒にいる事は出来ないのです。そもそも、神では無いのですから。だから、神は、愛をもって優しく言われるのです。ほかの神々を持つんじゃないと。

「わたしが神だ。わたしがあなたの世話をする。」「わたしは、あなたが世話をしなければならぬような神ではない。」「あなたが、毎週であれ、毎日であれ、わたしを洗ったり、磨いたり、細工をしたりする必要はないのだ。」

「わたしが、あなたの世話をする。」

「あなたが、わたしの為に世話をする必要はないんだよ。」

「わたしは、あなたの為に、あなたと共に居る。」

「わたしは、あなたの神になりたいのだ。」

「わたしを神にしないか？」

これが、イスラエルに起こるのです。彼らは、それが神であり、唯一主である事に気づきます。

もし、恐れおののいて、不安になっている人がいるなら、私はそれを責めたりしません。ただ言わせてもらいます。アメリカが、聖書預言に出てこない事に関して。この妥当なシナリオは、もう一つのシナリオとセットで起こる可能性は高い。それは、クリスチャンの不在、つまり携挙です。それについて説明します。言いかえれば、突然の滅びが下ってきた時、私たちは、突然瞬く間に上げられる。これが妥当です。

そこに至った理由を説明します。第一テサロニケ 5:3 を引用します。聞きながら、皆さんは3つのキーワードによく気を付けて聞いてください。「彼ら」「突如」「逃れる」です。

“人々が「平和だ。安全だ。」といっているようなときに、【突如】として滅びが、【彼ら】に襲いかかります。ちょうど妊婦の産みの苦しみが臨むようなもので、（【彼ら】）はそれを【逃れる】ことはできません。”（第一テサロニケ 5:3）

次に救世主の言葉で、ルカの福音書からお読みします。

“まことに、あなたがたに告げます。すべてのことが起こってしまうまでは、この時代は過ぎ去りません。この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは決して滅びることはありません。あなたがたの心が、放蕩や深酒やこの世の煩いのために沈み込んでいるところに、その日がわなのように、突然あなたがたに臨むことのないように、よく気を付けていなさい。その日は、全知の表に住むすべての人に臨むからです。しかし、あなたがたは、やがて起ころうとしているこれら全てのことからのがれ、人の子の前に立つことが出来るように、いつも油断せずに祈っていなさい。”（ルカ 21:32-36）

そこで、どのようにしてのがれるのかと、思っている方には、ヘブル人への手紙にその答えがあります。よく聞いて下さい。

“もし、御使いたちを通して語られたみことばでさえ、堅く立てられて動くことがなく、すべての違反と不従順が当然の処罰を受けたとすれば、私たちがこんなにすばらしい救いをないがしろにしたばあい、どうしてのがれることができましょう。”（ヘブル 2:2）

言いかえれば、どのようにして逃れるのか？イエス・キリストの救いによってです。そうして私たちは逃れます。大患難前携挙の健全な教えを信じている、我々に敵対している人達に、いつもこんな風に言われます。「あなたは、ただ逃れたいんだね。」それに対して、私はいつもこう答えます。彼らの顔を見て言うのです。「あなたは逃れたくないの？」「じゃあな。私たちは、ここには居たくないんだ。」もちろん、愛をこめて、です。

“わたしたちがこんなにすばらしい救いをないがしろにしたばあい、どうしてのがれることができるでしょう。この救いは最初主によって語られ、それを聞いた人たちが、確かなものとしてこれを私たちに示し、そのうえ神も、しるしと不思議とさまざまな力あるわざにより、またみこころに従って聖霊が分

け与えてくださる賜物によってあかしされました。”(ヘブル 2:2-4)

最後に、恐らくこのシナリオが妥当だと思える、最も説得力のある聖句です。突如の滅びが下り、同時に私たちが上に上がる。パウロが第一コリントでこう書いています。

“聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな、眠ることになるのではなく変えられるのです。終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。”(第一コリント 15:51-52)

「一瞬のうちに」。これは、瞬きではありません。測ることの出来ない速度。目の中の光の反射のような、それほど速いです。それぐらい突然だ、と言っても良いでしょう。

そこで、第一テサロニケを読んでみましょう。

“【私たち】はイエスが死んで復活されてことを信じています。それならば、神はまたそのように、イエスにあって眠った人々をイエスと一緒に連れて来られるはずですよ。”(第一テサロニケ 4:14)

——これは、キリストにあって死んだ人です。

“私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それから、キリストにある死者がまず初めによみがえり、次に生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、——”

“引き上げられる” 携挙とは、ギリシャ語でハーパーゾ、ラテン語でラプトウラス。次回誰かが「携挙(ラプチャー)なんて、聖書には書いていない。」と言ったら、これを説明してください。「もし、ラテン語の聖書をお持ちなら、書いてありますよ。ラプトウラスが、ラプチャー(携挙)と訳されているのですから。ギリシャ語はハーパーゾで、英語では Caught up (引き上げられる)ですよ。」

ところで、Caught up の裏にある意味は、強制的に、素早く、突然に、一瞬にして、です。

“——いっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、【私たち】は、いつまでも主とともにいることになります。こういうわけですから、このことばをもって、互いに慰め合いなさい。”(第一テサロニケ 4:14-18)

最後は私の大好きな御言葉です。

さて、もし人に「私たちは逃れられない。突如の滅びが下る時、私たちはここに居るんだ。」と言わなければならないなら、どうしてこれが慰めになりますか？なりませんね？これは、当てはまりません。私たちが互いに慰め合い、励まし合えるとすれば、それは、私たちは、ここに居ないからです。私たちは、逃れるからです。彼らは逃れられない。私たちは逃れる。言って良いですか？携挙は「大脱出」です。私たちは逃れます。

最後に、私たち一人一人に質問をして終わりたいと思います。その質問とは、次の通りです。

「私は、【彼ら】か？それとも【私たち】か？」もしかしたら、「分からない。」と言う人が居るかも知れません。もしそうなら、今日聖餐式に預かる前に、どうすれば、【私たち】になれるのか、お伝えしたいと思います。他により言い方が見つかりませんが、私は、【私たち】になりたいです。

「救いのABC」で知られる形で、イエス・キリストの福音をお伝えしたいと思います。とても簡単で、子供にでも分かります。



A=Admit/認める、Acknowledge/認識する

自分が罪人であり、救い主が必要であると、認め、認識するのです。私たちは、誰もが罪人として生まれました。だから、霊的に新しく生まれなければなりません。自分が罪人であると、認識したなら、ローマ書にはこう書いてあります。

“「義人はいない。ひとりもない。」

(ローマ3:10)

そうすることによって、私たちは自分には救い主が必要であることを認めます。私たちは、自分の罪の為に、死んでいたからです。ローマ3:23にはこうあります。

“すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることが出来ず、” (ローマ3:23)

ローマ書6:23では、悪い知らせと良い知らせがセットで入っている聖句で、それによると、

“罪から来る報酬は死です。”

——これが悪い知らせです。

私たちは皆、神の法を犯してしまいましたから。私たちは皆、神の完璧な義の基準から、もれてしまったのです。そして、それに対する罰は死刑。しかし、良い知らせとは、

“罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。” (ローマ6:23)

B=Believe/信じる

“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。” (ローマ10:9-10)

これが良い知らせ、これが希望です。違いますか？これこそ、祝福された希望ではありませんか？というよりも、これは祝福された希望どころか、唯一の希望です。私たちにある、唯一の希望です。事実、カンファレンスで、私は、教会の大患難前携挙について、その理由をお話します。私は、これを誇張していません。これを文字通り言っているのです。もし、イエスキリストの花嫁の携挙が、大患難前に起こらなかったら、私は頭がおかしくなっていたでしょう。冗談ではありません。本当です。いつでも、ラッパが鳴り、キリストにある死者がまず初めによみがえり、次に生き残っている私たちが、たち

まち彼らと一緒に雲の中に、一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです（第一テサロニケ 4:17）。キリストにある死者がまず初めによみがえる。私は、娘ノエルに会うのが、待ちきれません。私が朽ちる体を脱いで、朽ちないからだを着る前に、娘の体によみがえりが先に起こるのです。私の母、父もいと願います。皆さんにとっても、主の元に帰った、愛する人全員。彼らの霊は、主と共に居ますが、彼らの体はここにいます。それがまずよみがえるのです。そして、皆さんも彼らにまた会える。それも、空中で主と一緒に会うのですよ。そして、永遠に共に居るのです。私には、待ち望むこの希望があるなら、どんな困難でも、乗り越えられる。

“今の時のいろいろの苦しみは、将来わたしたちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足らないものと私は考えます。”（ローマ 8 : 18）

私は、私の救い主イエスが、私の目から全ての涙を拭ってくださることを、考えるのです。皆さんの涙も、です。私はイエスについて考えます。私たちが、主と一緒にいる時、その日は、どれほどの栄光だろうと。

もしあなたが、とても苦しい試練をとおられるなら、この言葉をもって励ましたいと思います。すぐに、本当に間もなく、主は来られます。ラッパの音になると。そしたら、もう死もない、悲しみもない、痛みも、涙も、もうないのです。それらは全て過ぎ去ります。私たちが待ち受けるその栄光は、この世の試練の人生の痛みや、格闘、そんなものとは比べ物になりません。

C=Call/呼び求める、Confess/告白する

最後に、主の御名を「呼び求める」。ローマ書にはこうあります。

“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で、神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。”（ローマ 10 : 9-10）

最後にローマ 10:13 です。これで協議を封印と言いましょうか。

“「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」” のです。

これまでに一度も主の御名を呼び求めた事のない人は、お願いします。また、警告します。もう時間があまり残っていません。これは、後回しに出来る決断ではありません。もし、主があなたの心の扉を叩いておられるなら、それを後回しにしてはいけません。扉を叩くのが、止まる日が必ずやって来ますから。その音が、もう聞こえなくなるのです。どうか、扉を開いて主を招き、主の御名を呼び求めて、救われてください。

祈りましょう。

愛する天のお父様。私たち、キリストにある者たちに与えられている、この祝福された希望に感謝します。主よ。あなたが私たちの為に、私たちの代わりにしてくださった事に感謝します。今日、私たちは聖餐の食卓に預かり、それを祝います。私たちの救いを思い出し、祝って、これを行います。あの日、

十字架上で砕かれた、あなたの体と、あなたの血とで、全額支払ってくださいました。主よ。救いの無償の賜物に感謝します。私たちは、信仰によってめぐみにより、救われました。私たちの行いではありません。私たちは働きによって、それを手に入れる事は出来ません。でもこれは、私たちが受け取る賜物で、私たちが誇る事の無いためです。そこで主よ。今日ここに居る人、もしくはオンラインでこれを見ている人の中に、一度もあなたを呼び求めた事の無い人がいるなら、もしくは、確信がないなら、ヨハネが言いました、

“永遠の命を持っていることを、あなたがたに、よく分からせるためです。”(第一ヨハネ 5:13)

どうか、彼らが今日決断しますように。そして今日の聖餐式を、彼らも、ともに祝えますように。主よ。ここに居る人の中で、疲れている人、重荷を負っている人、落胆している人、その落胆が、絶望に変わっている人が居るなら、あなたが、聖霊によって彼らを慰めてくださいますように。主よ。感謝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

聖餐式

ルカの福音書 22 章の中で、私たちは最後の晩餐を行うようにと、命じられています。聖霊に導かれルカが書いています。

“さて時間になって、イエスは食卓に着かれ、使徒たちもイエスと一緒に席についた。イエスは言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたと一緒に、この過ぎ越しの食事をするをどんなに望んでいたことか。あなたがたに言いますが、過ぎ越しが神の国において成就するまでは、わたしはもはや二度と過ぎ越しの食事をすることはありません。」”(ルカ 22:14-16)

また同じことを言いますが、主は、私たちが、今日これから行う事が、小羊の祝宴で成就される人を心から待ち望んでいると、言っておられるのです。このように考えてみてください。主は、私たちが主の元に行くのを待ち望んでいるのと同じくらい、私たちと一緒にいる事を、待ち望んでおられるのです。これが、花嫁を持つ花婿の心ですよ。事実、聖餐の食卓の祝い、ユダヤの婚宴のルーツと伝統があって、花婿が、花嫁にプロポーズするのです。そして、花嫁は杯を受け取り、そこからの飲み、パンを食べる事で、プロポーズを受けるのです。これは、花婿が私たち花嫁に、これが神の国で成就し、一緒に預かる日が待ち遠しい、と言っているのです。

それからルカは続けます。

そしてイエスは、杯を取り、感謝をささげて後、言われた。「これを取って、互いに分けて飲みなさい。あなたがたに言いますが、今から、神の国が来る時までには、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」”(ルカ 22:17-18)

ここで主は、2 度目にこの気持ちを表されました。

“それから、パンを取り、感謝をささげてから、裂いて弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与える、わたしの体です。わたしを覚えてこれを行いなさい。」”(ルカ 22:19)

今、私たちが手にしているのは、イエス・キリストの砕かれた体を象徴します。そして理解しなければならぬのは、この象徴の裏にあるのは、種無しのパンの祭りです。彼らは、3つのパン片の2つ目を取ります。これは、三位一体の第二神格を象徴していて、イエス・キリストの事です。その体は砕かれました。骨ではありません。骨は一本も折られませんでした。それは預言ではなく、主の皮膚が裂かれたのです。なので、主の体が、裂かれたのです。過越しの子羊の体が裂かれて、血が注ぎ出されるのと同じです。それが、この預言を成就させたのです。

ここでイエスが言われているのはこうです。これは象徴だ。あなたがたは、出来る限り何度でも行いなさい。そして、わたしがあなたがたにした事を思い出さなさい。わたしの体は、あなたの代わりにあなたの為に砕かれたのだ。そして、過ぎ越しの小羊としてこの預言の成就なのだ。

主よ。私たちも、最終的にこれが成就される日を、あなたと主に迎える事を、心から待ち望んでいます。言葉にならない程の、栄光に満ちた日となるでしょう。主よ。それまでの間、私たちがあなたを覚えてこれが出来る事に感謝します。でなければ、私たちは日々の生活の煩いや忙しさの中で、忘れてしまいます。ですから、少なくとも1か月に一度は集まって、あなたと、あなたがしてくださった事を思い出して、これを行う必要があるのです。主よ。あなたが支払ってくださった代価に対して、私たちはどれほどお礼を言っても言い切れません。主よ、感謝します。

“食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約です。」”(ルカ 22:20)

聖書にはこうあります。

“血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。”(ヘブル 9:22)

私たちが手にしている杯は、私たちの罪の赦しの為に流された血を指していて、その象徴です。そして、それは完了されたのです。完了されました。1つ、以前にもお話ししましたが、7というのは完成数だという事は知っていますね？それから、イエスはその砕かれた体の7か所から、血を流されたことも知っていますね？一緒に数えてみましょう。両足2、両手首4、ムチで撃たれた背中5、額に棘の冠で6、そして最後に、脇腹で7。ローマ兵が突き刺した時に、完成数の7です。そして、興味のある人にとっては、とても面白いことがあります。私はこういうのが大好きです。イエス・キリストの脇腹から出た2つの要素は、血と水。これは、出産のときに出る要素で、キリストの花嫁が、第二であり最後のアダムの脇腹から生まれたのです。アダムは、あばらである、その脇腹から彼の花嫁が生まれました。そして第二であり最後のアダムは、十字架の業を終えられ、完成された時に、その花嫁、キリストの花嫁が生まれました。それを私たちは今日、ここで祝い、思い出しているのです。完了された。私たちがしなければならない事は、何もありません。すでに完成された事に対して、私たちが付け加えなければならない事は、何も無いのです。

主よ。これは、これから来ることの、ほんの味見に過ぎません。主よ。私たちを向き直して下さい、ありがとうございます。私たちのフォーカスを再びあなた中心に出来るように正して下さい、ありがとう

ございます。そして、あなたが十字架で完成させてくださった御業に感謝します。私たちが、自分達の救いに目を向けられるように、私たちの救いの喜びに、私たちの贖いが近いという希望に、私たちが目を向けられるようにしてくださり、ありがとうございます。その視点で私たちが見れるように、助けて下さりありがとうございます。私たちには、その視点が必要です。私たちがあなたを見上げる時、私たちの問題は小さくなります。その大きさも規模も、私たちを愛してくださる神に比べると全く及びません。あなたは、ひとり子を与えてくださいました。それは、御子を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためです。主イエス様。早く来てください。マラナタ！このお祈りを、イエスの御名によっておささげいたします。アーメン。

主にあって、キリスト中心の素晴らしい週をお過ごしください。

このメッセージはカルバリーチャペル カネオへの JD ファラグ牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、Calvary Chapel Kaneohe (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル 4 : 7

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe

47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by まい